

令和8年度 学校経営の改革方針

1 めざす学校像

- 学校教育目標 「自分も友達も大切にし、学び合い、育ち合う家城っ子の育成」
- めざす学校像 ○わかる授業、考えが深まる学習を大切にしたい、楽しく学べる学校
○一人ひとりの児童を大切にしたい、人権感覚があふれる学校
○家庭や地域の力を活かしたい、安心して活力に満ちた学校
- めざす子ども像 ○意欲を持って学び、考え、行動する子
○自分に自信を持ち、友だちの思いに寄り添う子
○心身ともに健やかで、たくましい子

2 現状と課題

少子化に伴い児童数の減少が続く、令和元年度から複式学級2学級の編制になっている。地域の学校への期待は大きく、保護者・地域住民は日頃から学校の教育活動に理解を示し、積極的に児童の学習を支援してくれる。児童は素直で、何事にもまじめに取り組むことができ、互いに支え合ったり高め合ったりしながら楽しく学校生活を送っている。

児童数が少ないことを強みとして捉え、きめ細かな指導、異年齢集団の活動、家庭・地域と協働した教育のさらなる充実と自己肯定感の涵養を図っていきたい。

3 重点目標

- (1) 小規模校の特性を活かし、地域や家庭との協働による教育活動の充実を図ります。
- (2) たゆまぬ授業改善により、「わかる授業」を展開し、学力の向上に努めます。
- (3) 自他を大切に、友だちと共に学び、つながり、差別を許さない子どもの育成に努めます。
- (4) 地域全体で子どもたちの安心・安全を守る環境づくりに努めます。
- (5) 家庭や地域と連携した、開かれた学校づくりを推進します。
- (6) 働きやすい職場づくりに努め、職員の働き方改革を進めます。

4 具体的な行動計画

- (1) ・児童の状況などを丁寧に把握し共有しながら、全職員で全校児童を守り育てます。
・地域住民との協働活動を積極的に取り入れ、自己肯定感の涵養を図り、豊かな感性・人間性を育みます。(図書ボランティアによる読み聞かせ、稲作体験、茶摘み体験、出会い学習等)
- (2) ・「対話的で主体的な深い学び」の実現のため、授業改善の研究をし、ICTの活用、自主的に取り組む家庭学習の励行などにより、学力の定着を図ります。
・具体的な「振り返り」から遡る授業設計を行い、児童に学習の見通しを持たせることで、学ぶ意欲を高め、学力の向上に努めます。
- (3) ・生い立ち学習、地域学習、交流学习、出会い学習を通して、自分の思いを伝え、友だちの思いを受け止め、返していくことができる児童を育てます。
・稲葉特別支援学校との交流を継続し、互いを認め合い、学び合えるインクルーシブ教育を進めます。
- (4) ・保護者・地域住民と連携した交通安全教室、避難訓練、通学路点検に取り組み、児童の安全に対する意識の高揚と危機管理能力の育成を図ります。
・学校運営協議会を開催し、地域の声を学校運営に活かしながら、学校経営の計画的な改善活動に取り組みます。
- (5) ・学校ホームページの充実や通信の発行などを通し、学校や児童の様子を積極的に発信します。
・家庭や地域を積極的に訪問し、保護者の思いや地域住民の願いを真摯に受け止め、それに寄り添う教育活動を推進します。
- (6) ・一人あたりの月平均時間外労働30時間以下と年間休暇取得日数の前年度比2日増、月2回の定時退校日の設定と60%以上の職員の退校、放課後開催会議の60分以内終了をめざします。